【静岡県】

静岡県立田方農業高等学校
ライフデザイン科セラピーコース

高校生ボランティア・アワード2023

❤ 認知症カフェ「ふる～るカフェ」の継続開催 ❤

私たちライフデザン科セラピーコースは農業を福祉に活用していく「園芸福祉」を中心として幼児から高齢者、特別支援学校と連携して実践的に学習をしています。その実践の場として、2018年より函南町地域包括支援センターと連携し、認知症の方とその家族や地域住民が園芸を楽しみながら交流できる認知症カフェ「ふる～るカフェ」を高校の実習室で開催しており、今年は７回開催、本年度で５年目となります！

❤ 認知症マフを知るきっかけ ❤

朝日新聞厚生文化事業団主催「認知症フレンドリーキッズ講座」を本校にて開催。講座で認知症マフについて紹介して頂き、ボランティア活動の一環として普及できないか検討を始めました。

❤ 認知症マフってなに？ ❤

イギリスの病院や高齢者施設で使われている「マフ」
イギリスでは、認知症の人が毛糸で編まれたカラフルな筒状のニット製品を使っている姿を見かけます。これらは「Twiddle Muff」といわれ、内側にはリボンやボタンなどのアクセサリーが縫い付けられています。Twiddleとは「（手で）いじる」という意味で、認知症の人がアクセサリーを触わることで安心感が得られるそうです。製作しているのはボランティアグループや編み物が趣味の主婦たちで手作りで完成させたものを地元の病院や高齢者施設にプレゼントしています。

❤ 認知症マフの期待できる効果 ❤

マフは、毛糸で編まれた筒状のカラフルなハンドメイドの小物です。

不安やストレスのある人の落ち着かない手を温かく包み込み、心地よい触覚や視覚による刺激が得られるようです。

マフは暖かい色、柔らかい手触りによる心地よい癒しの効果から心と体の緊張を解きほぐし、安心感が得られ、周囲の人とのコミュニケ―ションのきっかけにもなるようです。

マフを継続して活用するとお気に入りのタオルケットのような愛着を持つようになり、外出や受診、入院時などに持参すると場所が変わってもなじみのものが身近にあることで癒し効果にもなると考えられます。

掴んだ物をなかなか離さない人には、あらかじめマフを持って頂くと、とても介助がスムーズに行えます。
(例　シートベルトを離さない人やベッド柵を離さない人など)

❤ マフってどうやって使うの？ ❤

- マフは筒の両方から手を通して、毛糸の表面やアクセサリー、筒の中の毛糸やマスコットなどを触って、その感触を楽しみます。
- 片手だけを通したり、両手でマフを抱えたり、時にはマフやマスコットを眺めて楽しむなど使い方は自由です。
- マフを使用したお気持ちをご本人に伺ってみてください。マフを通してコミュニケーションも活発になることも多いようです。

毛糸で繋ぐ人と人　～認知症マフの製作と普及～

地域の方々と協力して認知症マフ 作りをスタートしました。最初はマフから作ろうと頑張りましたが、私たちだけで認知症マフを編むことは難しく断念！
隣町で認知症カフェの運営をしているボランティアグループ「行くべ～」さんに認知症マフの本体をお願いし、私たちはマフにつけるマスコット作りと本体への取付を行い、あわせて認知症マフを広く知ってもらうために広報にも力を入れました。また、認知症マフを使う方への提供は伊豆の国市の地域包括支援センターや順天堂静岡病院の看護師さんにお願いしています。みんなで集まって話し合いを重ねながら少しずつですが活動を進めています！

認知症マフ本体製作（ニット部分）
伊豆の国市認知症カフェグループ「行くべ～」

マフ本体製作のお願い

「行くべ～」の方に
筒状のニット製品（マフ）
をいただく

ライフデザイン科セラピーコース
- ○手で握れるくらいのサイズのマスコットを作る
- ○マスコットを取り付ける
- ○つけたものが取れないか綿がでないかなどを確認

飾りの付いたマフを
医療や介護施設に提供

使用状況などの
フィードバック

医療機関や介護現場で実際に実際に使用して頂きます。

☆医療現場

順天堂大学医学部附属静岡病院看護部入院業務課　師長 老人看護専門看護師　古屋曜子さん
NTT 東日本伊豆病院　認知症認定看護師　中村さん

☆介護現場

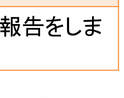
伊豆の国市内　在宅介護サービス事業所等
伊豆総合福祉センター「伊豆ライフケアホーム・伊豆白寿園」

田方農高生と福祉関係者
ケア活用へ手作り
「認知症マフ」知る
伊豆日日新聞

「認知症マフ」の製作と普及活動の流れ

11月6日	浜松医科大学で開催された認知症マフのワークショップに参加し認知症マフの作り方を教えていただきました。
11月12日	文化祭で認知症マフを知ってもらうために展示しました。
12月3日	田方農業高校で開かれた認知症カフェに「行くべ～」の方から認知症マフを提供してもらいました。
12月6日	セラピーコース2年生（現3年生）で認知症マフ本体に取り付ける飾り（ボンボン）の試作を行いました。
12月26日	伊豆市で開催された「ボランティア講座」にて活動発表しました。
1月14日	認知症マフの打ち合わせを行いました。（第１回） ＊自己紹介／役割分担の確認
3月9日	認知症マフの打ち合わせを行いました。（第２回） ＊マスコットの取り付け方の確認とつけ直し、鍵編みを「行くべ～」さんに教えてもらいました。
5月13日	認知症マフの打ち合わせを行いました。（第３回） ＊「認知症マフ勉強会」発表内容の検討
5月20日	認知症普及活動チーム名を「チーム　そわん」に決定
5月24日	「FMいずのくに」ラジオ番組に出演。認知症カフェやマフについて話をしました。
7月15日	認知症マフ勉強会を伊豆の国市大仁支所で開催。マフ作りの活動報告をします。

認知マフ普及 「　チーム　そわん　」の“そわん”とは。。。
Soinとはフランス語で**介護、お世話する**と言う意味です。



フィードバックを大切に
～それぞれの人に合った認知症マフ作りをする。～

【急性期病院で使っていただました。】認知症認定看護師さんより

【使用前】患者Aさん　80歳代後半女性
- 認知症の既往歴あり
- 肝門部胆管癌による閉塞性黄疸のため入院
- 点滴ルートを触り外してしまったり、抜いてしまうため両手にミトンを装着されていた。
- 夜間は「お父さん」と大きな声で呼ぶ様子が見られた
- 表情が固く、発語が少ない印象

【使用後】患者さんの変化
- Aさんにマフを見せると「可愛いね」ニコリと笑顔
- マフを手渡すと、マフにつけていたウサギのマスコットを笑顔で撫でる。
- マフを触ったり、布団の上に置いたりしながら過ごす
- 点滴を気にすることがなくなった。
- 看護師さんに「あなたもどうぞ」とマフを勧める

持続可能なボランティア活動をめざして
～繋げて行く認知症カフェ・認知症マフにする。～

７月15日にいよいよ伊豆地域にむけて「認知症マフ」普及のための勉強会を地域の方々と協力して開催します。認知症マフを実際に使ってもらい、利用者の方の意見を聞きながら改善して広めていきたいです！
５年目となる「認知症カフェ」は先輩たちからバトンを受け取り、私たち３年生が中心になり企画や運営をしています。認知症マフについても地域と繋がりながら進めてきました。
３年生になって自分の進路について考えたり、就職や進学のための勉強が忙しくなって来ました。気持ちに余裕がなく、思うように時間が取れなくなっています。
認知症カフェや認知症マフ作りや普及活動が私たちで途切れないように、１年生や２年生に活動の魅力を伝えて、この活動を引き継いでもらうように働きかけていきます！

Instagramを使って情報発信

「認知症カフェ」や「認知症マフ」、ボランティア活動や普段の学習について積極的に情報発信中！！

LIFED.ESIGN